

## 第562回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和7年9月3日（水）午前11：00より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名

○出席委員数 8名

○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

林 新一郎 委員長

井上 裕子 副委員長

新芝 正秀 委員

笹本 正治 委員

中谷 富美子 委員

中山 潔 委員

樋代 章平 委員

南澤 光弥 委員

○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

○放送事業者側出席者名

須垣 有司 （代表取締役社長）

早川 英治 （取締役 報道制作・デジタル推進担当）

小林 修 （取締役 編成業務・放送番組審議会担当）

浅輪 清 （編成業務局長

兼 考査部長 兼 放送番組審議会事務局長）

北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）

伊藤 晴彦 （報道制作局長）

黒岩 祐治 （報道制作局制作部長）

大日方詩織 （長野放送制作部）

4. 議題

（1）番組審議

『 NBSフォーカス∞信州 戦後80年 記憶の灯火 』

（令和7年8月1日（金）午後7時00分～7時57分 放送）

(2) 視聴者対応報告（令和7年7月、8月分）

(3) その他

## 5. 議事概要

### (1) 番組審議

- ・長野県ゆかりの人々が終戦間際の出来事を後世に伝えていく行動を取り上げて、最後に現在進行中の新しい行動を紹介するという流れは大変良い。
- ・四つの記憶として、医療関係、芸術関係、行政歴史関係、教育関係とそれぞれの分野の人々に関心を持たせる手法は効果的で、一つの番組にして伝えるということは、関心のなかった分野の人たちにもその事柄を知らしめることになって一層の効果があった。
- ・四つのエピソードが皆、今年の事柄で、今までと同じ話のなぞりだけではなくて、新しい継承活動を取り上げているところが非常に評価に値するのではないかと考えた。
- ・全体的には凄まじく生々しい、言葉では表せない戦争体験というのを、特に1番目の小池軍医のエピソードのあたりから強く感じた。
- ・東京大空襲の体験をデカルコマニーという技法で描かれた田中清光さんの絵は、テレビ画面からでも燃えて焼き尽くすような赤と焦げつくような黒が、非常に印象深く表現され、言葉では表現できない凄まじい体験を絵画の技法で、印象として表現されたことを映像として非常にうまく我々に伝えた。
- ・デカルコマニーで表す友人を突然亡くしたその思いとかいうのはなかなか聞く機会がなくて、あの展覧会を見てこの番組も見ると、その田中清光さんの思いがより分かった。
- ・私は体験ないが、それほどの記憶を封じ込めなければいけないほどの悲惨さが戦争にはあるのだというのを非常に感じた。

- ・この番組で最も印象深かった言葉は、「今日の聞き手は明日の語り手」という言葉だった。
- ・戦争の記憶を記録して後世に繋いで行く、それが番組の重要なテーマであり、今回の番組は他人事ではない、一緒に後世に繋いで行こうという一本、筋が通った番組に仕上がっていたとても良い番組だ。
- ・番組全体のコンセプトはしっかりして、一つ一つのエピソードも入念な取材による丁寧な番組作りがされていた。
- ・番組の全体のテーマからも、視聴した人自身が、後世に伝えていく使命を与えられていると感じた。
- ・私が番組を見て一番良かったのが、それぞれの証言の方の発言に対してテロップが乗ったこと。私も2回3回も繰り返して見たけれど、発言者のメモを取るには非常にありがたかった。
- ・毎年何らかの形で継続していくことが、この戦争を二度と起こさないという本当に「記憶の灯火に耳をすます」ということの活動につながると感じた。
- ・今回の番組に大きく拍手を送ると同時に、伝えることはある意味ではできるが、この次を目指し、二度と戦争を繰り返さないために我々はどう生きるかを考えていきたい。
- ・頑張った先生の話は今回良くわかったが、苦労というか子どもに伝えていく現場の難しさみたいなことは、もうちょっと掘り下げて、そこに先生がどんな工夫をされたのかっていうことは知りたかった。
- ・この先、聞いた人たちが聞き手から語り手になる時にどうなるのだろうっていうのは、非常に興味深いと思い、そこら辺の深掘りも、今回だけでなく次への課題提起もされていると感じたので、その取り組みを続編という形で追いかけた番組もあってもいいのではないかな。
- ・今のままでは戦争の体験が風化されかねない状況を伝えて、番組としては記憶の

灯火が消えてしまう危機として問題提起するようなエピソードがあっても良かった。

- ・日本の国内では戦争の体験を語り継いでいくことができたとしても、戦争には相手がいるわけで、その相手になり得る存在に対しても、同様に影響を与えることができないと、なかなか本当の意味での戦争をなくすということには繋がらないのではないかと思います。
- ・戦争遺構「糸洲の壕」に関して、本来であれば、沖縄県や糸満市が整備するものであって、その遺構を保存できない課題背景、そしてなぜ佐久市がその整備を一緒にやったのかというそのプロセスを丁寧に伝えるべきだった。
- ・番組タイトルの『記憶の灯火』がなかなか難解なタイトルだと思い、導入の部分でもうちょっとサブタイトルで分かりやすい表現の仕方があると、もっと視聴者は入りやすいのではないかと感じた。
- ・セットのスタンドライトの電源コードが露出していたり、その床のシートもなんとなくボコボコに見えたりとか、この辺もう少しやりようがあったのではないかと思います。
- ・重盛さん、小宮山さんのナレーションは、最初はカメラを向いてメッセージを発したけれど、途中からちょっとずらした状況で2人がカメラを見ずに正面を向いていたっていうあの感じが、どうなのだろうかと感じた。
- ・長野空襲とか、松代大本営とか、松本にも爆弾が落ちている県内の戦争の記憶がまだ残っている人から聞き出す努力も是非やっていただきたい。
- ・満蒙開拓団に地元から少年義勇隊も相当行っているから、それを送り出す校長先生の苦悩などもあるはずなので、是非県内の取材をしていただきたい。

## (2) 視聴者対応報告（令和7年7月、8月分）

資料に基づき、令和7年7月分と8月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

### (3) その他

#### 配布資料

- ・第561回番組審議会（令和7年7月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和7年7月、8月分）
- ・モニターレポート

『 NBSフォーカス∞信州 戦後80年 記憶の灯火 』

（令和7年8月1日（金）午後7時00分～7時57分 放送）

- ・BPO報告（NO. 279、280）
- ・民間放送ニューズレター（第2241、2242号）
- ・タイムテーブル（7月～9月分）

以 上